



平成28年熊本地震の応急復旧支援

～札幌市管工事業協同組合～

平成28年4月14日(木)及び16日(土)に発生した熊本地震に見舞われ、亡くなられた方々にご冥福をお祈りいたしますとともに甚大な被害を受けられ被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

札幌協では、札幌市水道局と「災害時等における水道の応急活動に関する協定」を結び、災害等が発生した場合には「応急給水・復旧隊」として活動を行います。

今回の熊本地震に際して、4月27日、日本水道協会救援対策本部より北海道地方支部に派遣依頼があり、翌28日に札幌市水道局より正式要請を受け、被災地である熊本県熊本市に平成28年4月30日～5月11日まで、応急復旧隊を派遣し、札幌市水道局職員、(一財)札幌市



日水協東北・北海道支部派遣隊員打合せの様子

水道サービス協会職員とともに水道管の復旧活動を行いました。

現地では、日水協の復旧体制に従い、東北・北海道支部隊が立ち上り、仙台市・札幌市・小樽市とともに、その配下で作業を行うこととなりました。

ここに、応急復旧隊の現地での派遣状況について報告します。



被災地、益城町の様子①



被災地、益城町の様子②

派遣期間：「平成28年4月30日(土)～5月11日(水)」12日間

札幌協組合員：(有)マルスイ (6名)



写真左から 鈴木敏仁(世話役)、藤井一輝(配管工)、本下智充(配管工)、佐賀 騰(普通作業員)、大久保一夫(重機オペレーター)、黒田好幸(普通作業員)【敬称略】

【行程】

4月30日(土) 被災地熊本市に向けて作業車両4台と共に小樽港よりフェリーで出発。(23:30)

5月1日(日) 舞鶴港に到着(21:15) 舞鶴にて宿泊。

2日(月) 朝から熊本に向け移動開始。重機を積んだ車両では、1日で700kmを走破するのは困難なため、途中の山口県岩国市で宿泊。

3日(火) 朝から熊本に向け移動開始。(熊本まで残り300km) 夕方、ようやく熊本市内へ到着。そこからさらに車で1時間ほど移動した玉名市のホテル「しらさぎ」に到着。先に現地入りしていた札幌市水道局、札幌市水道サービス協会等の先遣隊と合流。なお、滞在中の食事は、ホテルにて朝・夕食が提供され、昼食は熊本市水道局からお弁当が支給された。

4日(水) 熊本市東区戸嶋1丁目にて、最初の応援復旧工事を行った。現地で掘削したところ、下水雨水管φ75mmのパイプがソケット部で抜けていた。一部補修、入替修理を行い完了。



5日(木) 熊本市中央区段山本町2丁目にて、給水管(VP)2箇所での漏水修理を行った。事前調査では漏水箇所は1つと思われ、作業時間も半日程度で終了する予定だったが、復旧後にバルブを開くと違う箇所から漏水している事が判明。掘削幅を広げ、2箇所目の復旧を行い、結局夕方に作業完了となった。この現場での作業中に深度4の余震が起り、皆外にいたが大きな揺れを感じかなり驚いた。震度6や7は想像ができない…。



6日(金) 熊本市南区出仲間1丁目にて配水管(DIPφ100A形)の漏水と思われる箇所の復旧工事にあたった。掘削後、サドル付分水栓のボルト腐食による漏水と判明。新たに分水栓を取付け分岐穿孔を行った。
この日、日水協救援対策本部より東北・北海道支部の撤退命令が出され、予定している復旧工事を終了させてから帰札するよう指示が出された。

7日(土) この日は、撤退前に残されていた2現場の復旧工事を行った。
1現場目は熊本市東区八反田3丁目にて、給水管(VP)のソケット部巣穴からの漏水等、2箇所の修理を行った。
この日2現場目に向かったのは北区龍田5丁目、給水管(LPφ13mm)に空いた穴から漏水していた。漏水箇所が非常に入り組んでいたため、部分的にポリエチレン管を使用してカーブ部分の対応をした。これで、予定されていた全ての復旧工事を無事終わることが出来た。



8日(日) この日は、本来であれば、2次隊との引継ぎの時間となっていたが、応援隊の派遣は1次隊で終了となったので、作業車及び荷物の整理等、9日(月)からの移動の準備日となった。

9日(月)	この日はホテルで朝食を取り、朝から熊本市を後にする。 向かうは700km先にある舞鶴港のフェリー乗り場へ、行きと反対の行程で帰路に着く。
10日(火)	午後9時頃フェリーに乗船し小樽港へと向かう。
11日(水)	午後11時頃ようやく小樽港へ到着。

応急復旧活動に参加して

(有)マルスイ 鈴木 敏仁氏（世話役）

応急復旧参加決定から出発までの時間が無く、現地の状況を調べることも出来ずに慌ただしく準備して出発した為、不安を持ちながらの出発でした。フェリー乗船中は外部との連絡が取れず、下船後に現地先発隊からの連絡で初めて現地の状況や活動内容がわかり、熊本に近づくにつれて応急復旧活動の経験が無いためか緊張感が大きくなりました。

熊本に到着し、応急復旧活動を開始して驚いたことが幾つかありましたので紹介します。

- ①熊本市内で使用している管種、継手が多種多様で、札幌市では採用していない管種、継手が多かったこと。
- ②熊本市の生活道路は、札幌市と違って碁盤の目のような道路ではなく、曲が

りくねっており迷路みたいだったこと。

- ③現場移動中、建物の壁や屋根瓦が崩れている建物が数多くあったこと。
- ④余震回数が多かったこと。（実際に体感した数は5回程で、その中で最大震度は4でした。）

最終的に、熊本市での応急復旧活動は5箇所を実施することができました。応急復旧活動が終わっても札幌に帰るまでの道のりが長く、交通事故等に遭わないように気を引き締めて、札幌に到着するまでは安心できませんでした。

最後に、今後また応急復旧活動に参加する機会があったら今回の経験を生かした準備や気持ちに余裕をもって参加したいと思いました。